

微粒化シンポジウム講演原稿割付見本

- 注 1. 本書式に従って、原稿は、A4 版で作成する（上下 20 mm，左右 15 mm マージン）。
注 2. 原稿提出時には、図、表、写真の原本を所定位置に貼り込む。
注 3. 本書式は、微粒化シンポジウムの講演原稿割付見本である。
注 4. 特に指定しない本文の字体は、全角文字：MS 明朝，半角英数字：Times New Roman とする。
注 5. また、用紙 1 ページは、28 字×55 行×2 段=3080 字相当とする。

[1 行目～3 行目は空行とする]（以降、空行は 9 ポイント，MS 明朝とする）

[4 行目と 5 行目] **題名は 14 ポイント，MS ゴシック，ボールド体，行の中央に書く。**
[副題は 6 行目] **（副題は 11 ポイント，MS ゴシック，ボールド体，行の中央に書く）**
[1 行あける]（題名，副題は 1 行あたり 140 mm 以内とし，適宜改行する）
[英文題名は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **Atomization by Means of Hole Nozzle**
[英文副題は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **(Theory of Atomization)**
[1 行あける]
[著者名は 10 pt, MS ゴシック, 行の中央に書く] **京都 太郎***, **東京 花子**
[英文著者名は 9 pt, Times New Roman, 括弧付きで和文著者名の真下に書く] (Taro KYOTO), (Hanako TOKYO)
[著者所属は 9 pt, MS ゴシック, 英文著者名の真下に書く] **京都大学** **東京大学**
[英文所属は 9 pt, Times New roman, 括弧付きで著者所属の真下に書く] (Kyoto Univ.) (The Univ. of Tokyo)
[2 行あける]

In the previous paper, the authors presented several experimental results on the characteristics of atomization by means of a hole nozzle.

（両端 15 mm インデント，9 ポイント，Times New Roman）

Keywords: Atomization, Hole Nozzle, Exciplex Method, Spray Angle,, Diameter
（キーワードは，英文アブストラクトの次行に 5～10 語を記載する）

[2 行あける]

1. はじめに

[1 行あける]

章番号および章名は、**10 ポイント，MS ゴシック，ボールド体**で行の中央に書く。第 2 章以後は，章番号および章名の前後と本文の間は 1 行あける。ただし，章や節が原稿用紙の最上段になった場合は，前の文章と 1 行あけず，第 1 行目に書く。本文は，9 ポイント，MS 明朝で書く。

[1 行あける]

1.1 節名が 2 行以上にわたる場合の書き方は，この例による

前の文章と 1 行あけ，行の左端より 1 こまあけて節番号を書き，1 こまあけて節名を **10 ポイント，MS ゴシック，ボールド体**で書く。本文は次の行から 1 こまあけて書く。新しい段落は，1 こまあけて書く。文章の区切りには読点としてはカンマ「，」を用い，句点としては，ピリオド「。」を用いる（括弧を付して補足説明する場合，この例のように，本文の句点の前に括弧を [1 行程度あける]

挿入し，括弧内の文章の最後は句点を付さない。

句読点は，1 こま分を使用するが，行の最後の場合に限り，追い込んでよい（禁則処理）。

文献番号は，^{(1),(2)}（カンマで区切る）または⁽³⁾⁻⁽¹⁰⁾のように上付文字で書く。

1.1.1 項名が 2 行以上にわたる場合の書き方は，この例による

前の文章との間は空行を設けず，行の左端より 1 こまあけて項番号を書き，1 こまあけて項名を **9 ポイント，MS ゴシック，ボールド体**で書く。本文は次の行から 1 こまあけて書く。項以下の区分は，(a), (b), ... などとし，その書き方は項の場合に準じる。

[1 行あける]

2. 図、表の書き方

[1 行あける]

本文と図、表の間は 1 行以上あける。また，図番，図題は図の真下中央に配置し，表番，表題は表の真上中央に配置する。

図題，表題は英語で記述する。また，図番，表番は，それぞれ Fig.1, Fig.2, ... および Table 1, Table 2, ... のように通し番号として，9 ポイント，Times New Roman で書く。本文で

* 責任著者：正会員，京都大学 ← 会員資格，所属を記入
（〒615-8530 京都府京都市西京区 1） ← 住所
E-mail: ← 責任著者のメールアドレスを記入

引用する際、図 1, 図 2, …, 表 1, 表 2, …とする。
 また、図、表はできるだけ下側および右段に寄せて配置すると、見栄え良く仕上がる。

[1 行あける]

3. 式の書き方

[1 行あける]

式は、左端より 3 こま以上あけて書き、式番号は括弧を付して右端に書く。数学記号、単位は、9 ポイント、Times New Roman とし、数式の書体は、以下のようにイタリック体にする。

[1 行あける]

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

[1 行あける]

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

[1 行あける]

ここで、 a : 液膜の厚さ [mm], …

分数を書く場合、式(2)のような表記法を用いる。ただし、本文中に記述する場合、 $d(e+f)/(g+h)$ のように書く。

[1 行あける]

4. 図、表、式が両段にまたがる場合

[1 行あける]

本文、図、表、式、脚注、文献などは、原則として本原稿用紙の 1 段 (片側) に書き、2 段 (両側) にまたがって書かない。ただし、図、表、または式が 1 段 (片側) に収まらない場合、2 段 (両側) にまたがって書いてもよいが、この場合、[見本: Table 2] のように当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図表によって中断されないように書く。

[1 行以上あける]

- 図の外枠は表示しない。
- 図中の文字は英語で表示する。
- 文字の大きさは 9 ポイント以上とする。
- 図番、図題は図の真下中央に英語で書く。
- 他の文献より転載したときは、図題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

Fig.1 Experimental apparatus

Table 1 Experimental condition

- 表の外枠は表示しない。
- 表中の文字は英語で表示する。
- 文字の大きさは 9 ポイント以上とする。
- 表番、表題は表の真上中央に英語で書く。
- 他の文献より転載した場合、表題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

[1 行以上あける]

5. おわりに

[1 行あける]

以上述べたように、本原稿用紙を用いて執筆する際に最も注意すべき点は、読者が読みやすいように配慮することである。

[1 行あける]

文 献

[1 行あける]

- (1) 京都太郎, 仙台次郎: 液化ブタン噴霧の特性, 微粒化, 10-5(2000), 145-148. ← [和文雑誌]
- (2) Johnson, R., Schmidt, P., Thompson, G.: Characteristics of Entrainment Spray, J. Atomization, 112 (2001), 28-30. ← [英文雑誌]
- (3) 今出川一郎: 微粒化機器の設計, 京都書籍(1995), 79-82, 103. ← [和文書籍]
- (4) Smith, T. A.: Mechanism of Atomization, London Pub. Inc. (1993), 34-39. ← [英文書籍]
-途中省略.....
- (10) 日本微粒化学会編: 微粒化の原理と実際, 同慶出版会 (1991), 11-15. ← [和文書籍]

図、表が 2 段にわたる場合の書き方は、この例による。

Table 2 Properties of *n*-pentane and *n*-heptane

- 図、表が 2 段にわたる場合の書き方は、この例による。
- 図、表は、当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図、表によって中断されないように書く。
- その他は、Fig.1 と Table 1 に準じる。